

質問用紙に（本学元理事長）とありますので、その職にあった時の事を聞かれていますと思いますが、その前に、市を退職後 4 年間事務局長（法人化の翌年就任）を、その後 3 年間法人理事を、その後 2 年間理事長を、という経過でしたので、理事長前の経験が入り混じっているかもしれません。気を付けて記載してみますが、気付かない場合もあるかと。ご容赦頂きたく。

在任当時の大学の状況、印象に残っている事、等

私の在任期間は 2 年間で、本多理事長 6 年間の在任の後、後任の人選が中々進まなかったのもので、ピンチヒッターという感じでした。

大学はそれまでにはなかった社会的状況に置かれており、つまり、①国公立といえどもこれまで通り親方日の丸で予算がもらえる、といった事はなく、法人化により決められた法的な手続き、年度計画を提出し、結果を報告し、それに基づいて評価を受け、それにより予算額が決まる事、②少子化による全入時代の到来、大学の総定員が大学入学希望者とイーコール、つまり選り好みしなければ何処かの大学に入学できる時代、といった事です。

市大についていえば、市民の税金を戴いている大学でもあり、定員が満たされておればそれでよい、という事にはなりません。優秀な人材が選んで入学してくる、そういう評価のある大学でなければならぬんです。しかし、旧帝大や、私学慶應・早稲田といった既存の強みはないので、それらと伍しながら市大の社会的評価をどう創り、さらに上げていくかが最も重要な仕事でした。

国公立は法人化以前、広報といった事には市大に限らず、全くといっていいほど手を付けていませんでした。（その点、私学は歴史的に、以前から結構取り組んできてました）社会的評価を得るには、市大の存在価値を知ってもらうことが不可欠です。大学に必要な事は、良い教官がいる事、そこで学びたいという意欲ある学生が入学してくること、教育、研究、診療を補償する環境がある事、が基礎条件です。この事は社会的に高く評価されている事と関連していますので、人事制度や学生支援制度、物理的教育研究環境整備などと合わせて、広報活動が必要でした。

なので理事長の仕事はこれに徹しました。先ず地域に、市大の存在をしっかりとってもらうこと。金沢区役所や連合町内会等、地域区域の諸機関・組織への働きかけ、地域の企業連合体の会合への出席や個々の企業への訪問活動、県内大学の訪問、同窓会など市大卒業生へのアプローチ。医療関係では、県内病院との連携強化を

図るための関連病院化の推進、研究部門では、国の研究課題募集へのヒアリングへの参加、等。横浜市への働きかけは勿論、あらゆる機会にやり、定期的な協議の会議を設定してもらいました。

本学の特色、良いと思われる部分、気になる部分等

本学は他の国公立に先駆けて、法人化を含む大学改革に取り組みました。かなり性急だったため、最初は抵抗も大きく、様々な問題も起こりましたが（例えば先生方が不安視され、かなりお辞めになられたり・・・）時間の経過とともに落ち着きました。そして、今では、全国殆どの大学が（国大、神大 et も）改革路線に沿って学園の運営をスタートさせています。よいと思われる点は、トップランナーとして改革の考えをしっかりと我が物にしているところだと思います。そして、もともと実力はあるのに真面目で控えめなので、見合った評価がしてもらいにくい所でした。今はもうそうではないかもしれませんが。

旨く表現できてない気がしますが、他の方々がきっと良い報告をして下さっておられると思うので、これでおささせていただきます。伸ばすと、宿題を出してないような気持ちになってしまうので。

2022, 4, 15

田中克子